

映像監視における2021年の動向



映像監視における2021年の動向

2020年、新型コロナウイルスの感染爆発に世界が震えました。ぎすぎすした不安な空気も社会を覆いました。政治の分断も昨年の世界の象徴です。そして、世界各地でのかつてない大規模森林火災。連続して発生した大型の台風、ハリケーン。2020年は世界にとって苦難の一年となりました。もちろんこれらの出来事はそれぞれ別の問題です。しかし、要因や背景の考察をすれば、起きていることはそれぞれ因果関係があるのかもしれませんが。残念ながら、まだ世界では新型コロナの感染拡大が続いており、2021年に入っても、私たちはこれらの危機を乗り越えていかなければなりません。

いま、世界は、不確実な時代の中にいます。これまでの常識が通用しないので、多くの人々が問題に直面しています。このホワイトペーパーでは、2021年におけるセキュリティ業界の動向を示していきます。すべての内容はカバーできませんが、例えば、クラウドへの移行が加速していること、プライバシーと連動した安全性を求める声が高まっていること、正確なデータと分析の必要性が強調されていることなどご説明します。

では、当社の専門家が、映像セキュリティ業界の2021年における展開をどのように見通しているかをご紹介します。



映像監視市場は、2020年の455億ドル(USD)から2025年には746億ドル(USD)に成長すると予測されています。

その1

顧客はクラウドを求める。

企業の約90%がクラウドをビジネスに導入しているとレポートされています。数年前、ミレニアル世代(日本だと20代前半から30代後半くらいの年齢の人々を指し、インターネットが当たり前の時代に育った世代)が、いつでもどこでも仕事ができる柔軟性を強く求めていたことから、クラウドの導入が急速に拡大しました。2020年を振り返ると、新型コロナウイルスの流行によってテレワークの活用が更に浸透したことがわかっています。ビジネスの世界では、在宅ワークで生産性の維持に奔走した1年となりました。

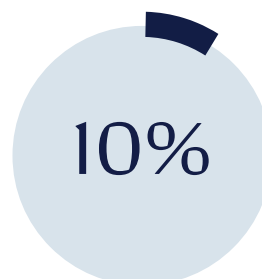
いずれにしても、映像監視のうち、クラウド上にあるのは約1割に過ぎません。残りは、カメラが設置されている施設内のサーバーやマシン、コンピュータに保存されています。

しかし、それは変わりつつあります。その主な理由は、大幅なコスト削減、データセキュリティの強化、リモートアクセスと保守、柔軟なストレージと保持、スケーラビリティ、安定性の向上、災害復旧など、映像監視分野におけるクラウドのメリットがあまりにも強力だからです。さらに、インターネットの帯域幅の利用可能性が飛躍的に向上したことで、帯域幅の問題はもはやクラウドコンピューティングにおいて問題ではなくなりました。

なお、クラウドはオープンなプラットフォームを可能にし、柔軟で高速な技術革新と長期利用を促進します。



企業の90%がクラウドで業務を行っている



映像監視の10%がクラウド、しかしクラウドは増加傾向にあります。

その2

先進的な映像解析(AI)は、映像監視システムをより価値のあるビジネスソリューションへと変貌させる。

映像監視システムは、もはやセキュリティのためだけのものではなく、ビジネスインテリジェンス(BI)のための貴重なツールとなっています。多くの映像管理システム(VMS)プロバイダはこのことを説いてきましたが、ほとんどの業界ではその実現に失敗しています。映像監視を変革するためのAIとBIの普及と採用は、ガートナーのハイブ・サイクルを反映しています。AIとBIの普及と採用は、「テクノロジー」からのサイクルを経て「黎明期」から「過度な期待」のピーク期、「幻滅期」、そして「啓発期」へと徐々に戻っていきます。現在は「生産性の安定期」に達しています。つまり、映像セキュリティの世界において、AIとBIが標準になりつつあるということです。

適切なプライバシー保護とサイバーセキュリティ対策を備えたスマートなクラウド映像監視は、例えば、武器、不穏な運転、多発する強盗、不審な徘徊などの危険を検知します。その結果、企業や地域社会を最終的により安全なものにします。さらに、企業は、顧客の行動、サービス、および全体的な小売業務を分析し、大幅に優れた顧客体験を提供します。そして、企業は、より安全でよりタイムリーな方法で、より高品質の製品を提供することになります。

また、AIはセキュリティ業界の大きな問題である誤報も減らしています。映像解析によって、動物の動きやうねるようなカーテンなどの良性の動きによってシステムが不必要なアラームを作動させないようにすることができます。同時に、洗練されたアルゴリズムは、年齢層、性別、服の色、さらにはビルに入る訪問者がフェイスマスクを着用しているかどうか、ソーシャルディスタンスを保っているかどうかといった詳細までも識別できるようになります。

「適切なプライバシー保護とサイバーセキュリティ対策を備えたスマートなクラウド映像監視が、最終的に企業や地域社会をより安全にします。」



EAGLE EYE NETWORKS

GENERAL

Dashboard

Layouts

1-10 out of 20

All Cameras

Common Areas

Entrances

High Traffic Areas

Intrusion Detection

People Counting

Austin 1st Floor

Austin 2nd Floor

Dallas 1st Floor

Dallas 2nd Floor

Settings

Bridges & CMRS

Analytics

Create Layouts

Notifications

User Management

Account Information

All Centers

Search

Sales Office - Austin

Main Hallway - Austin

Engineering Team - Austin

Conference Room 1 - Dallas

Marketing Team - Dallas

Executive Office - Dallas

File Dept - Dallas

Conference Room 2 - Dallas

Building Entrance - Austin

Turnstile - Austin

Building Lobby - Dallas

Lobby Conference Room - Dallas

General Entrance - Austin

Parking Lot - Austin

Parking Garage Entry & Exit - Dallas

Parking Garage Level 1 - Dallas

General Entrance - Austin

Parking Lot - Austin

Parking Garage Entry & Exit - Dallas

Parking Garage Level 1 - Dallas

その3 映像監視のコンプライアンス要件は常に進化する。

映像監視は、産業や大陸を超え広く採用されるようになるにつれ、その使用を規制されることがより一般的になってきています。例えば、以下のようなものがあります。



ボディ ウェアラブル カメラ

警察官がボディ ウェアラブル カメラをいつ、どこで、どのように操作するかについては、法執行委員会が定めた政策が一般的です。

近い将来には、これらの政策は、看護師、清掃員、マッサージセラピスト、食品配達員などの在宅サービス・プロバイダー向けの商用ボディ ウェアラブル カメラにも拡大すると予測されています。実際、ボディウェアラブルカメラ市場は、現在から2025年までの間に16%の複合年間成長率を記録すると予測されています。

支払い

クレジットカード情報に定期的に接触する企業は、クレジットカード業界のセキュリティ基準であるPCI DSS (Payment Card Industry Data Security Standard) に準拠していなければなりません。カードデータが漏洩しないようにするため、または迅速なインシデント調査のために、機密領域への物理的なアクセスを監視し、収集した監視データを保持することが必要です。





教育分野

特別支援教育の教室のコンプライアンス要件は強化されています。米国の多くの州では、虐待を自ら報告できない特別な支援を要する生徒を守るための監視を地区に義務づけています。

医療機関

医療業界は政府の規制によって厳しく規制されています。その一環として、映像セキュリティは、患者やその医療記録、スタッフ、見舞客などの訪問者、施設自体を保護するために医療施設で使用されています。



その4

IT部門は映像監視に関与し、 映像監視を所有するケースが多い。

何十年もの間、オフィスの映像監視システムはセキュリティチームが所有し管理していました。しかし、近年では、ITリーダーは映像管理システムに関与するだけでなく、実際に映像管理システムを所有するようになってきました。IT戦略の一環として、企業は映像をビジネスプロセスの改善に活用し、不要な運用上のオーバーヘッドを削減しながら監視投資のメリットを最大化しています。

このシフトの主な要因は、サイバーセキュリティ対策の重要性を深く理解していることです。会社のコンピュータ・ネットワークの管理者として、電子メール、顧客関係管理(CRM)システム、会計ソフトウェアなどを含むネットワークの管理と安全確保から得た教訓を、監視カメラなど他の潜在的な脆弱性にも適用しています。

さらに、ITチームは、保守費用の低さ(運用とインフラストラクチャの両方)、VMSによる帯域幅の管理方法、カメラの互換性、クラウド技術に内在する広大な統合の可能性を高く評価しています。POS、入退室管理、プロセス管理など、より多くの基幹業務アプリケーションが映像監視システムと統合されるようになると、互換性、アクセス、セキュリティを確保する上で、ITはより重要な役割を果たすようになります。API統合の機会は無限にありますが、これに限定されるものではありません。





API統合の例:

- アクセス制御
- セールスポイント
- ビジネスアナリティクス
- センサー監視
- アラーム管理
- ライブ動画API 等

その5

顧客は、VMSの価値がより明確になるにつれ、オープンシステムを望むようになる。

電話、フィットネストラッカー、音声コントローラ(エコー、アレクサ)、ドアベルカム、またはサーモスタットであろうと、消費者はIoT(Internet of Things - モノのインターネット)デバイスに大きく依存するようになってきました。ですから、私たちが消費者と商業の合流を試みることは特段驚くようなことではありません。私たちが家庭でそういったデバイスを持っていますよね(自動化、制御、コスト削減、生産性の向上、リアルタイムアクセスなど)。

あなたの職場でも取り入れてみませんか？

オープンエコシステムにより、企業や開発者は、単一のVMSプラットフォーム上に任意の数のアプリケーションを統合することが可能になります。このプラットフォームは、カメラとのインターフェース、映像の録画、クラウドへの映像の安全な送信と保存、統合されたアプリケーションで使用可能な映像の作成など、すべての重要な作業を処理します。

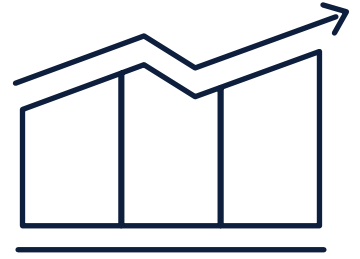
オープンなクラウドベースのAPI(アプリケーション・プログラミング・インターフェース)を企業に提供しています。



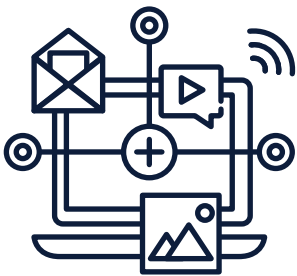
貴重な解析結果へのアクセス



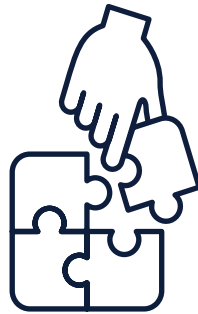
容易に革新する能力



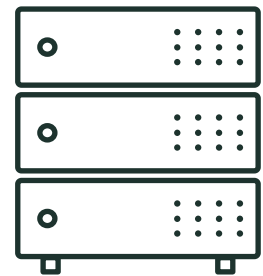
市場へ対応するスピード



いつでも必要とされる特定の技術を選択し、
選択できる柔軟性



POSシステムやビル管理システム(BMS)などの他のアプリケーションとの
シームレスな統合



レガシーテクノロジーへの投資を最大限に活用するための手段

30%

ビジネスオーナーの30%は、APIの統合が組織の新型コロナウイルス感染症への対応に役割を果たしていると述べています。



このようなオープンでアジャイルな、顧客中心の技術設計へのアプローチは、VMSプラットフォームとパートナーを選択する際のビジネスオーナーの主要な動機付け要因であり続けるでしょう。

さらなる、予想。

サブスクリプションモデルが好まれる。

これは予測というより、事実です。VSaaS(映像監視サービス)は、クラウドから提供する映像監視サービスです。以下のような多くの利点があります。

コスト削減

VSaaSモデルは、予測可能な毎月の運用コストに加えて、資本金の先行費用が非常に低くなっています

コスト (Total Cost of Ownership)の低減

すべてのコストを考慮すると、共有クラウドのインフラやサポートによるスケールメリットにより、継続的な月額利用コストが低くなります。

帯域幅管理

クラウドシステムは非常に高度な帯域幅管理機能を備えており、遠隔からのアクセスにはデータ消費量を低減し、よりスムーズな閲覧を可能にしています。

信頼性と冗長性

クラウドデータセンターでは、ストレージの冗長性が2重3重になっています。

簡単なインストールと継続的なサポート

クラウド型VMS/VSaaSは、オンデマンドでの利用が可能です。ブリッジは、遠隔からプロバイダーによって継続的にサポートされます。

柔軟性、拡張性、進化型

クラウド型VMS/VSaaSでは、共有インフラによってサーバを余すことなく活用し、コストを大幅に削減できます。この技術はオンプレミス保存とクラウド保存を組み合わせ、柔軟に対応することが可能です。

技術の長期利用可とAPI

解析、インテグレーション、運用のためのAPIはオープンで、一般に公開されています。全機能を提供するAPIは他のシステムでも使用可能です。

リモートアクセス

クラウド型VMS/VSaaSは、遠隔からもリモートアクセスできるような設計となっています。

サイバーセキュリティ対応

最新のクラウド型映像管理システムには、従来型システムにみられるようなサイバーセキュリティの脆弱性はありません。クラウド型システムには開放されているポート、オンサイトファイアウォール、オンプレミスソフトウェアはありません。ファイアウォールをインストールする必要もありません。



さらなる、予想。

5Gがやって来る。

5Gは第5世代、次世代の移動通信技術です。無線業界の業界団体GSMAによると、最速の5Gネットワークは4G LTEの少なくとも10倍の速度になると予想されています。


さらに、5Gは、2035年までに世界の経済生産高が12兆ドル以上になると予測されているため、大規模な経済効果が期待できるとThe Hillのオピニオン・コントリビューターであるブルース・メヒルマン氏は述べています。5Gは小規模ですがすでに開始されており、今後はより多くのデバイスを接続し、より多くのデータを収集する必要性が推進されるでしょう。

この新技術は、消費者市場とビジネス市場の両方で、変革的で革新的な技術を推進することが期待されています。5Gは、映像セキュリティ業界、特に無数のデバイスから映像やデータを引き出せるようになります。固定式の映像セキュリティカメラだけでなく、ボディカム(バスの運転手、列車の車掌、Uber Eatsの運転手を考えてみてください。)やドローンなどのデバイスも、農家やスポーツ競技場などのエンドユーザーにとって特に強力なものになるでしょう。

5Gはまた、固定インターネット接続(ケーブルやファイバー)に依存することなく、監視カメラソリューションを迅速に展開することを可能にします。これにより、ユーザーは遠隔地であっても、あらゆる場所に高解像度のカメラを迅速にグローバルに展開することができます。

5Gの普及には数年かかるかもしれませんが、すでに映像に関しては、肯定的な例があります。

当社では、5Gで動作する映像監視システムを導入しました。メキシコシティのマイストリートプロジェクトでは、次世代技術を活用して、犯罪の多い地域や公共交通機関に7万4,000台のカメラを設置し、そのうち2万台を4ヶ月以内に設置しました。



5Gを活用し、メキシコシティが7万4000台のカメラを設置したマイストリートプロジェクト。
本スマートシティプロジェクトの詳細情報は[こちら](#)をご覧ください。

お問合せ:

2021年の動向を踏まえ、御社のビジネスに最適なクラウド映像監視システムのお提案をさせていただきます。お気軽に下記までご連絡下さい。

イーグルアイネットワークス株式会社

TEL: 03-6868-5527(代表)

Email: APACsales@een.com

